

● 特別賞

学校・家庭・地域で自尊感情を育てる 『未来21学習』の工夫

山形県長井市立伊佐沢小学校 あさだちかこ 浅田千嘉子

1 主題設定の理由

本校同地区内の中学校に勤務していたとき、荒れていた学校ではないものの生徒たちの問題行動は毎日のことだった。

保健室には、摂食障害、不登校、鬱、その他精神疾患、自殺未遂、性の逸脱行動（妊娠の心配される相談）、性的虐待、授業放棄、教師への暴力などたくさんの問題を抱えた生徒の相談を行っていた。ほとんどの生徒は、自尊感情が低く「自分はどうなってもいい」と思っている。こちらがいくら自己評価を高めるようなアプローチをしても修正がきかない状態であった。その生徒たちの親は二通りで、がむしゃらに何とかさせようとする親、しかし子供は反抗する一方で改善しない。もう一方は「うちの子はただ生きてさえいればそれでいい」と、全くあきらめてしまう親。

このような事例から、いかに子どもたちの自尊感情を育てていくかが、学童時期の大切な発達課題であると痛感した。また、それらの自尊感情の育成には、学校や家庭の養育者が大きなキーを握っていると感じた。

今年度、本校勤務4年目である。本校は、児童数98名の小規模校で異学年間の交流もあり明るく伸び伸びと生活をしている。しかし、中には発達障害・虐待を疑うような児童や場面緘黙の児童も1割ほどいる。子どもたちへの具体的な支援について養護教諭が全面的に関わり、保護者の面談などもあわせて対応している。児童の言動を親や教師がいかに理解し対応するかがその子の発達にとって大きな

影響をもたらす。

また、親は子育てについて関心はあるものの結果のみに気を取られて、子どもが担うべき力を親自身が担ってしまっていることも多い。そのため、子どもは主体的に自分のこととして受け止め生活する機会を失い、失敗したときに責任転嫁したりと現実を受け止め、自己選択・決定・表現する力が乏しくなってしまうという心配がある。

実際、本校児童の様子を見てもそのような傾向も否めない。

自尊感情を育てるためには、学校と家庭・地域がそれぞれの役割を分担しながら育てていく必要があると考えた。

そこで、3年前から『未来21学習』とネーミングして学校・家庭・地域と連携した自尊感情を育てる教育を計画的に取り組んできた。

2 研究の全体構想

(1) 研究の目標

『未来21学習』とは……望ましい人間関係の育成（性教育）と主体的な生活リズムの定着

- ①健全な心の育成
- ②自他への思いやり（主体的判断による）
- ③賢く生きる力（自己選択・決定・表現）

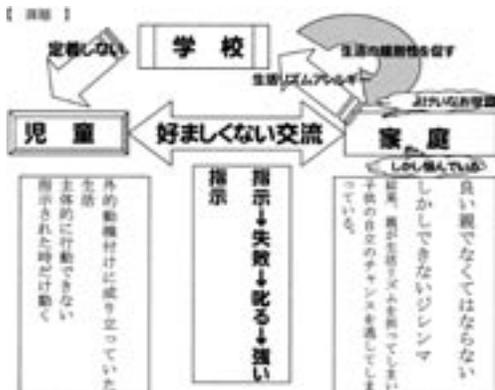
この3つをめざして未来のエネルギーの根底となる自尊感情を育成していくために、学校と家庭のあり方・そして効果的な取り組みを工夫していく。

(2) 研究の仮説

ア 生活リズムについて

学校から「子どもに規則正しい生活をきちんとさせるべきだ!」という強迫観念が親に伝わり、その結果、子どもが担うべきものを親が担っている現状にあった。そのため、生活リズムの結果だけを見るのではなくその過程が大切であると考えた。そこで次のような仮説を立てた。

- 良い親になるのではなく、責任ある親になるためにはどのような子育てがあるのかを話していくことが、主体的な生活リズムの定着につながるのではないかと。ひいては、子どもが自分自身の問題は自分で解決できる力をも、育つのではないかと。



イ 性教育について

性教育は、広く“生き方教育”として捉えていきたいが、保護者や地域住民には“性(性徴にとまなうもの)”の教育と狭く捉えていた。そのため、家庭では教えられないと尻込みしてしまい、ほとんどの人が学校におまかせという感じであった。性教育は、その子どものことを、一番大事に思える人が、その子のことだけを考えて語るからこそ重要であると思われる。そうしたことが、自尊感情を育てる効果的な過程であると感じる。

また、親は子どもの言動に戸惑うが、それが一般的な心の発達課題であることがわからず不安になり、子どもに悪影響を与えていることも少なくない。このことは、親子の信頼関係をまずくして、子どもは親に大切にされている感情が育たない。そのため、自分の評価を低く見てしまうことにつながると考える。そこで次のような仮説を立てた。

- 子どもの発達課題を親が理解し、その過程で大事な子育ては何かがわかることで安定した親子の交流ができるのではないかと。

その上で、学校の性教育と家庭の性教育の役割を明確に提示しながら分担するプランを与えていくことが、子どもの自尊感情を育てることにつながるのではないかと。

(3) 研究の方法

研究の仮説に迫るための方法

ア 生活リズム

- ① 家庭への働きかけ
 - a 良い親と責任ある親の違いを知らせ、子どもが主体的に生活リズムを担うための手だてを紹介し、家庭全体で良い交流ができるために祖父母にも働きかけをしていく。
 - b 家庭の教育力を高める活動をPTAと共に実践していく。
- ② 子どもに対して
 - a 科学的な目で生活リズムを考えさせていく。
 - b 自己管理の体得を意識させていく。

イ 性教育

- ① 家庭への働きかけ
 - a 心の発達課題や自尊感情を育てる関わりを載せた具体的な役割プランを立て、家庭との連携を図り、学習後、具体的にどんな話しを家庭でするのかのヒントを与えていく。

- b PTAで研修会を行い意識化を図っていく。
- ② 子どもに対して
 - a 年間4時間の「未来21学習」を計画的に実施し、高学年ではテーマを設けて行っていく。
 - b 学習プリントを家庭との連携も含めて工夫をし、自尊感情を育てていく。
 - c 年一回は授業参観で公開していく。
 - d 効果的に外部講師を招聘し授業を行っていく。
- ③ 家庭・地域の共通理解を得る。
 - a 子どもや親の意識調査をもとにして指導内容を計画していく。
 - b 指導内容は、学校・家庭・地域で検討委員会を立ち上げ検討を行っていく。
- ④ 教師間の共通理解を得る
 - a 授業研究として研修会をし共通理解を図りながら行っていく。

(4)研究実践の内容

ア 実態把握（全校親と子どもの調査）学級懇談会で話し合う。【平成14年度】

資料1のように、生活リズム調査の結果をそれぞれの学年の特徴と課題についてまとめて提示した。それをもとに、学級懇談会を行い学校での生活リズム指導計画について共通理解を得た。

イ 「良い親から責任ある親へ」のPTA研修会と保健だよりの連載

「主体的な子どもを育てる責任ある親とは」のシリーズを保健だよりに連載した。資料2は一回目の保健だよりで「生活リズムがなかなか身に付かないという悩みにお答えします」というもの。子どもと関わる親のパターンを載せた。8回シリーズで、の中には特別寄稿として資料3の県内臨床心理士の先生や奈良少年鑑別所長さんのメッセージを載せたところ、保護者の反響も大きく「参考になった。じっくりと聞いてみたい」という声が多かった。

ウ 責任ある親となる望ましい3世代同居の交流 祖父母学級「ぼかぼか集会」の試み

本校の90%の家庭は3世代同居である。そのため、主体的な子どもを育てるために関わろうとしても祖父母の協力が不可欠になる。

	特 徴	課 題
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・起床・目覚めなど問題はない。 ・ゲーム・テレビ視聴時間など問題はあまりない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●疲労度、心の健康度が低い児童が4割いる。学校に行きたくないと思っている児童が全学年で一番多い。(学校にまだ慣れていないからということもあるのか) ●朝の排便ができていないのが、9人いる。約半数。 ●朝食を食べない子供は3人。 ・9時から10時に寝る児童が6人(32%)そのうちの半数が、食事時間が遅い。6人のうちの4人は、心身に問題を抱えている(学校に行きたくない2人、気分悪い1、目覚め悪い2、あくび1、朝から眠い1) ・低学年にしては、スキンシップの時間が少ない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの子が「毎日元気である」 	<ul style="list-style-type: none"> ●朝の排便は、昨年と同じ人数が習慣化されていない。

●資料1/調査結果の考察



●資料8/「未来21学習」全体構想図

染症の実態をPTAや地域全体で理解する会となった。

ク 「未来21学習」全体構想図 が完成【平成15・16年度】

資料8の「未来21学習」の家庭と学校の役割プラン全体構想図についてPTA総会（ほぼ全家庭が出席）時に特に、家庭の役割について詳しく説明をしている。

また、資料8は低・中・高学年のブロックに分けてそれぞれの心の発達課題と自尊感情を育てる家庭での関わりがわかるようになっている。さらに、学校での「未来21学習」後、学習プリントを家庭に持ち帰り、家庭で具体的にどのような話しをしたらいいかというヒントも明確にして表示している。

ケ 「未来21学習」の実施/学習プリントの活用と学習内容検討委員会の開催

資料9の学校の役割にある年間計画を実施している。文部科学省の学習指導領にはないため、子どもの発達段階・親や地域の願いなどに合わせて内容を検討している。昨年度から、子どもや親に対して意識調査を行いそれ

らを参考にしながら学校・家庭・地域の代表者からなる「未来21学習」内容検討委員会を開催しそこで十分な意見を聞き構成した。

今年度は検討委員会を学校保健委員会の中で実施した。（写真5）

「未来21学習」6年生の内容に『〇〇な未来へさあ出発だ』というテーマの学習がある。これは学級活動の時間だけではなく、道徳との関連性をもたせ発展的に指導している。

内容は……

- 1 時間目〈ねらい〉自分の将来への夢をポジティブに考えさせる。これから、その可能性あるどんな未来に出発するのを考えさせ自分自身を高めるイメージをつかませる。
〈内容〉今までの自分史を書く。夢が現実になるハリポッターの未来図にこれからの自分の人生を書く。そして、「〇〇な未来へさあ出発だ」の〇〇にそれぞれ言葉を入れる。
- 2 時間目〈ねらい〉自分の可能性ある夢に向かって考えた言葉が、情報により変えられてしまう実態を知らせ、自分のテーマを全うできるような賢い選択・決定・表現する力を養わせる。
〈内容〉「未来と情報を自分の手で」担任・養護教諭・警察の方と授業を行う。情報の良い点・悪い点。事前調査での今の情報源。情報により犯罪などに巻き込まれてしまった例。ロールプレイによりスキル学習。

低学年の心の発達課題					
★大人社会で使う技能を学ぶ時期。『学ぶ』ことに関心の高い年齢。『学ぶ』ことが喜びに最も結びつきやすい。 ★正義感が強く先生やおうちの人の言動がよくなる。心を通り守るようになる。 ★親子のスキップが楽しみになる時期。親の手が離れると不安になる時期					
学年	学校の役割		家庭の役割		
	学習テーマ 子供がうちの人に教える内容	学習内容	学校の学習と関連させた 家庭での『未来21学習』	自尊感情を育てる関わり (子供が何人いてもその子だけについて)	
1年	「いのちをまもろう」 誘われた時の対処の仕方と連れて行かれそうになった時の行動	●誘拐の事例手口などを簡単に教える ●そのときどんなふうに対処してらいいの ●こんなときどうするか、場面を設定し、一人一人実際に対応。自分の命を守る練習 ◎ゲストティチャーを招聘し学習予定	○授業後、どんな勉強をしたのか聞く。 ○誘拐についてニュースになっただけから具体的に教える。 ○「子供110番」の場所などを教える。 ○その他命を守る(事故)方法。	◆愛情と安心の育成 ・話を聞く甘えさせる・ふとん会話・読み聞かせ ・おやすみだしめ ・姉妹・兄弟平等比べない ・家族間の和と温もり ◆家庭のルール(価値) ・がまんすること・あいさつ ・生活リズム(体の疲れが心に大きく影響を受けやすい) ◆親のルール善悪の判断 ・親の良き姿を学ばせる ・家庭のルールを社会でも体験させる(挨拶・マナー) ・施設の使用方 ◆他者理解	
	「おとこのおんなのこ」 男女の体の違いと性器の主な役割	●全体の体のおおよその仕組み ●その中の性器の仕組み ●性器の主な役割 ●大事なところ ●大事にする(けったりしないなど)	ペニス 陰 赤ちゃんのものと・卵	○テレビ番組中での好ましくない性の言動に対するコメント(パンツを下げて走り回る=ウケル、いけない) ○性器を大事にする。男女共に相手に大事にする。両親の場合は、こうしてるとか・・・	○お尻の拭き方にも意味がある。実際の拭き方の教え(汚ギャルが増加) ○一緒に入浴してレッスン(清潔な下着) ○清潔習慣の確立(歯磨き・手洗いの順番)
	「からだをせいけつに」 おしりの拭き方と体の汚れと入浴の順序	●男女の性器の位置と排便後のお尻の拭き方 ●体の汚れの場所と入浴の仕方 ●清潔な習慣の大切さ	赤ちゃんが生まれる穴	○お尻の拭き方にも意味がある。実際の拭き方の教え(汚ギャルが増加) ○一緒に入浴してレッスン(清潔な下着) ○清潔習慣の確立(歯磨き・手洗いの順番)	○危険な行動や不審者や不審な電話などの対応を具体的に教えておく。
2年	「いのちをまもろう」	1年生と同じ	○危険な行動や不審者や不審な電話などの対応を具体的に教えておく。	○友達の家での過ごし方(挨拶遊びマナー) ○買い物の仕方 ○自分でできたことの過程をほめる。 ○命の尊厳もへの尊重(体験を通して・食べ物でも同じ) ○性について抵抗のない時期から徐々に話していく。	
	「おへそのひみつ」 臍の緒の役割とお腹の中の仕組み・大事な命	●動物の育ち方の違い。(卵・体内) ●胎児が育つ様子。(栄養や空気など) ●臍の緒の役割と母のごことつながっている ●胎児の思い(手記より)	臍の緒 胎盤 羊水 空気 栄養	○おへそのひみつ事前 手記の協力 ○お腹の中にいたときの思い出エピソード ○妊婦さんから学ぶお腹の音や胎動 ○おなかの中の空気に両親やおうちの人は何を話してくれたか。様子など	
	「わるいことば」 テレビやマンガのウケで行動しない	●テレビやマンガの悪ふざけを真似 ●「チンコ!」「ペニス」など大事なところを言葉遊びに使わない。 ●ふざけて別なトイレに行ったりマナーを守って生活する。	マナー 考える 脳みそ	○テレビなどで良くないシーンがあったら、マナーなどと関連させながら話をする。 ○人前で、パンツ姿になったり脱いだりする行為について話す。 ○家以外のトイレの使い方。	

●資料9 / 「未来21学習」役割プラン



●写真5 / 内容検討会の様子

ぼくの考えた未来が、あのテープ図のようになるように佐藤先生からお聞きしたことを忘れないで、生かせるようにおぼえておきたいと思いました。

それに、4つのモードを忘れないようにし、だまされないようにしたいと思いました。

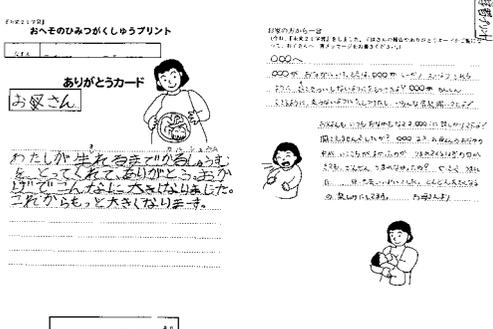
自分のえがいたすてきな未来に上手にいかして、自分の未来をしっかりとつくりたいと思いました。

●資料11 / 6年男児授業後の感想

今は親が守ってやれるのにも限界がある。危険が拡大している。自分を自分で守ることの大切さを感じてください。

こんなことを教えました!

家にパソコンがないから心配ない……ではなく、これから先、携帯電話を持つであろうその時の為にテレビなどからの情報で「危険」と思うものには絶対関わらないようにしましょう。好奇心でしないように。



●資料10 / 学習プリント (2年「おへそのひみつ」)

●資料12 / 学習プリントの中の親のメッセージ

また、資料10のように学習プリントは学習時、子どもたちが書く活動の他に家庭に持ち帰りお家の人に報告する材料にしたり、お家の人から一言メッセージを書いてもらい回収している。このプリントや授業の時に頂いたお家の方からの手記は6年間ファイルに個人ごと綴り卒業の時にプレゼントする。昨年度は全家庭のメッセージを『我が子へ 強く賢くやさしい未来への力を』という一冊の本にまとめた。

地区民に授業への参加をお願いした授業として『自分の命は自分で守ろう』がある。地区の子ども110番の家庭・PTA・地区センター関係・警察署員に協力をいただき誘拐に合わないためのロールプレイを中心に実施した。

(5) 研究の成果

子どもの意識調査の結果、お家の人から「未来21学習」について聞かれたり教えてもらうことをどう思うかという問いに80%以上

の子どもが「正しいことをお家の人から教えてくれてうれしい」「大事にされている気がする」と答えている。また、親の意識調査では、3年前と比べて性に関する親の意識に変化があったかという問いに89%が「ある」と答えている。その内容は「何を話していいのかわかってきた」(28%)「参観やプリントから話しがしやすかった」(48%)「子どもも話すことが多くなった」(20%)であった。親の意見から「他の学校の親が子どもに性のことを尋ねられて答えられなかった。しかし、未来21学習で親としての話らいも教えてもらえる。大変良かった。」このように親自身も「未来21学習」を効果的に評価している。長井市内でも性教育を重点的に取り上げているが、今年度写真7の研修所主催の研修会に授業提供した。5年「命の重さ～自分や友達の命・存在について考えよう～」学級活動を担任と養護教諭のT・Tで行った。指導助言では、家庭や地域の連携を上手に実施してモデルにしたいということで評価をいただいた。尚、5年生はその後道徳で「命の重さ～電池が切れるまで～」を実施する予定である。また授業参観では親も参加しての「自分の命・友達の命」を11月に行う予定である。

3 おわりに

外的な刺激によるモチベーションでしかない子どもの実態から、学校と家庭の良くない交流を明らかにし少しずつ親の意識を変え、さらに子どもの主体性を育てていく活動ができた。まだまだ、十分ではないところがあるが、何よりも親との信頼関係が築けたことが効果的な指導ができたことにつながった。また、地域が協力的であることも子どもの健やかな成長に欠かせない要素である。この要素づくりを少しは担えたこと。大人が安定しその中で子どもが安定する。今後も、子どもが幸せになるように邁進していきたい。



●写真6 / 1年通報練習の様子



●写真7 / 長井市研修所公開研授業提供